

高知から南海・東南海地震を考える

災害に対して国土を強靱化するにはどうすべきか

主催 高知大学海洋コア総合研究センター・東北大学総合学術博物館

日時：平成26年3月23日（日曜）13時30分～16時30分

場所：高知県立高知追手前高校・芸術ホール

共催：海洋研究開発機構高知コア研究所・高知県・高知市
後援：高知県教育委員会

プログラム

第1部 科学から探る巨大地震のメカニズム

13:30～13:35 開催挨拶 脇口 宏(高知大学学長)

13:35～13:50 JFAST速報：東北の巨大地震はどうして起こったか
木下正高(海洋研究開発機構 高知コア研究所)

13:50～14:05 南海地震に備える 海からの情報
金田義行(海洋研究開発機構 地震津波・防災研究プロジェクト)
— 休憩 14:05～14:15 —

第2部 巨大地震災害をどのように防ぐか

14:15～14:35 国土強靱化について 二階俊博(衆議院議員)

14:35～14:50 東日本大震災からの提言 安部 孝(宮城県議会議員)

14:50～15:05 国を挙げて南海トラフ地震に立ち向かうために
尾崎正直(高知県知事)

15:05～15:20 大地震の教訓を生かす
原 忠(高知大学 自然科学系農学部門)

— 休憩 15:20～15:30 —

第3部 高知ではどのように防災を行うか

15:30～16:25 パネルディスカッション

進行役：高野光二郎(参議院議員)

16:25～16:30 閉会挨拶 高野光二郎(参議院議員)



特別企画展示

東日本大震災の震災遺構
3Dバーチャル画像展示

日時：平成26年3月23日(日)
10時30分～12時30分

場所：高知県立高知追手前
高校・芸術ホール

既に解体されてしまった、気仙沼市に打ち
上げられた第18共徳丸の3次元画像



詳細はチラシ裏面をご覧ください



連絡先

高知大学海洋コア総合研究センター 電話番号：088-864-6712(事務室)

図・写真提供 JAMSTEC、高野光二郎事務所

高知から南海・東南海地震を考える

災害に対して国土を強靱化するにはどうすべきか

日時：平成26年3月23日(日曜) 13時30分～16時30分

場所：高知県立高知追手前高校・芸術ホール

講演者・パネリストのご紹介



金田 義行 海洋研究開発機構
地震津波・防災研究プロジェクトリーダー

昭和28年、東京都生まれ。東京大学理学系研究科大学院地球物理学専攻修了。理学博士。専門は地球物理学。



木下 正高 海洋研究開発機構
高知コア研究所所長

昭和36年、長野県生まれ。東京大学理学部卒業。東京大学大学院理学系研究科地球物理学専門課程修了。理学博士。専門は地球物理学。

原 忠 高知大学准教授

昭和49年、長野県生まれ。中央大学理工学研究科博士前期課程土木工学専攻修了。博士(工学)。専門分野は地盤工学、地盤耐震工学。



尾崎 正直 高知県知事

昭和42年高知県生まれ。東京大学経済学部卒業。平成3年大蔵省(現財務省)入省。国税局行田税務署長、外務省在インドネシア大使館一等書記官、主計局主査、理財局計画官補佐、内閣官房副長官秘書官などを歴任。平成19年高知県知事に当選。現在2期目。



二階 俊博 衆議院議員

昭和14年、和歌山県生まれ。中央大学法学部卒業。昭和50年、和歌山県議会議員に初当選。昭和58年、衆議院議員初当選。これまで運輸大臣、北海道開発庁長官、経済産業大臣などを歴任。現在衆議院予算委員長、自由民主党国土強靱化総合調査会会長。

高野 光二郎 参議院議員

昭和49年、高知県生まれ。東京農業大学卒業。平成15年、高知県議会議員に初当選。東日本大震災直後に被災地入りし、3か月のボランティア活動を行う。平成25年、参議院議員初当選。参議院災害対策特別委員会委員。



安部 孝 宮城県議会議員

昭和30年、宮城県生まれ。学習院大学法学部卒業。東北大学大学院農学研究科修士課程修了。松島町議会議員を経て、平成11年、宮城県議会議員に初当選。現在4期目。

会場へのアクセス



JR高知駅下車 徒歩15分

高知空港連絡バス(約30分)はりまや橋停留所 下車 徒歩15分

土佐電鉄 後免伊野線 電停(堀詰・大橋通・蓮池) 下車 徒歩10分

※会場には駐車場はございませんので、御来場の際には公共交通機関等をご利用ください

特別企画展示

「東日本大震災の震災遺構 3Dバーチャル画像展示」

日時：平成26年3月23日(日) 10時30分～12時30分
場所：高知県立高知追手前高校・芸術ホール

東日本大震災から3年が経ち、復興が進むにつれて震災の記憶も風化し、津波の被害を物語る震災遺構も解体が進んでいます。東北大学総合学術博物館では、震災の記憶を継承するため、東北地方の震災遺構の3次元デジタルアーカイブ事業を行っています。この事業では最新のデジタル技術を活用し、特殊なヘッドマウント装置を使用することで、取り壊された震災遺構が再び目の前に現れてくるシステムを開発しました。さらに、その中を歩き回ることもできます。

これにより、震災遺構が失われてもその記憶を継承することが可能となりました。最新のデジタル技術によって目の前に現れる震災遺構の記録をこの機会にご覧ください。



←宮城県南三陸町の防災対策庁舎の3次元クラウドデータの画像。津波がどのくらいの高さまで来たのかを体験することができます。

→岩手県陸前高田市にあった中央公民館内部の3Dバーチャル体験の様子。あたかも“タイムマシン”のように震災現場に戻ることができます。

